



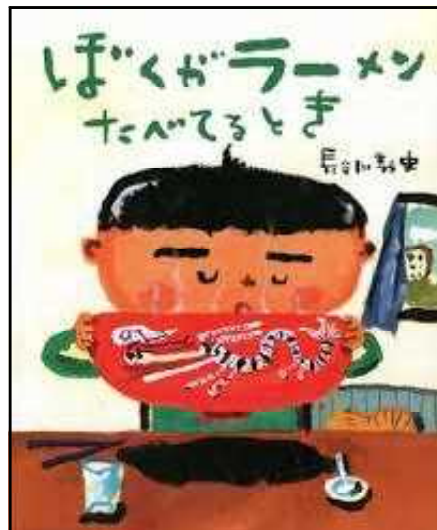
いいおかつ子

旭市立飯岡小学校
学校だより No.13
H30.10.9

◇◆◇10月（神無月）の全校集会◇◆◇

3日の全校集会で図書室に新しく入れた絵本の紹介をしました。

『ぼくがラーメン食べてるとき』（著 長谷川 義史）という絵本です。



ぼくがラーメン食べてるとき、となりのみっちゃんがチャンネルかえた。そのとき、となりのまち、となりの国、そしてそのまたとなりの国の男の子は……。日常から徐々に遠く離れた国の子どもたちへと思いを馳せる。遠い国で吹いた風は、ラーメン食べてるぼくのところにも吹いている。（同じ空の下に暮らす、すべての子どもの平和が守られますように。）

と、というような内容です。

低学年にはちょっと難しかったかも知れませんが、全校児童全員が真剣な表情で聴いていたので、何か感じてくれたかなと思います。

読書活動は子どもが言葉を学び、感性をみがき、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていくうえで欠くことのできないものです。

子どもが自発的に本を選ぶようになるには、「ある程度本を読んで、自分の好みと本の選び方がわかるようにならないと難しい」という指摘もあります。家庭や学校で、子どもが興味を持ちそうな本を選んで読み聞かせや読書をさせることで、子どもは徐々に自分の好みの本を選べるようになるそうです。

神無月（かなづき）の由来

10月は全国の八百万（やおよろず）の神様が、一部の留守神様を残して出雲大社（島根県出雲市）へ会議に出かけてしまうと考えられてきました。

その為、神様が出かけてしまう国では神様がいないので「神無月」、反対に出雲の国（島根県）では神様がたくさんいらっしゃるのので「神在月」というわけです。

また、「神無月」の無を"の"と解して「神の月」とする説もありますが、「神無月」も「神在月」も、神々が集う大切な月という意味です。

引用：暮らし歳時記



◆◆◆授業研究会◆◆◆



【1年1組 生活科】
「わたしのがっこう どんなところ」



【5年1組 体育科】
「けがのぼうし」

9月27日（木）校内授業研究会（防災教育）が1年1組と5年1組で実施されました。1年生は校内の危険箇所を見つけ、そこで地震が起きたときに安全に避難する方法を考えました。5年生は、地震でけがをしたとき、どうすればよいのかを話し合いました。今後、いざという時に今回学習したことが活かされることでしょう。

◆◆◆安心・安全対策◆◆◆

ここ数年、正門の門扉は開けたままの状態でしたので、24時間いつでも出入りが自由でした。

先日の文書でもお知らせしましたが、児童の安全確保のため、1日からは児童が在校時と夜間は正門を閉じておくようにしました。施錠はしてありませんので、御用の際は門扉中央下部の留め具（2か所）を外してお入りください。

本校の出入口は、狭い所を含めて7か所あります。その内、車が通れる出入口は正門と体育館南側、北西側（第二運動場側）、北側（給食車用）の4か所です。直接、車が児童昇降口や玄関に乗り入れることができるのは、正門と体育館南側の出入口です。そこで、その2か所については、一度車から降りなければ入れないようにします。



実際、悪意を持った侵入者が校地に入ろうとすれば、門扉や囲障（いしょう：隣り合った建物の所有者が敷地の境界の上に設けた塀・柵などの囲い。）は、それを防ぐだけの十分な高さはないので、どこからでも入れます。しかし、門が開いていれば、侵入の誘因ともなりかねません。門が閉まっていることで、侵入するためには門を乗り越えるとか、開けるというもう一つの行為が必要となり、一定の抑制効果になります。

御不便をおかけしますが、保護者の皆様の御理解と御協力をお願いします。（体育館南側については、今後対策を講じる予定です。）